

## さまざまなジャンルで活躍した佐野洋子の本

長年読み継がれている絵本「100万回生きたねこ」で有名な佐野洋子。絵本のほかにもエッセイなどさまざまなジャンルで作品を発表していたのはご存じでしょうか。2010年に亡くなった後も関連した本が出版されるなど変わらない支持を集めています。今回は多方面で活躍した佐野洋子の本を紹介します。

1冊目は「シズコさん」です。

七人きょうだいの長女だった佐野洋子。昭和13年に北京で生まれ、終戦とともに日本へ引き揚げてきます。病弱だった父に代わり子どもたちを育てた母シズコですが、徹底した現実主義の母と佐野洋子は幼少期から折り合いが悪く、長い間心を通わせることはありませんでした。その後母シズコが認知症になり、介護を決意します。そこで初めて真正面から母と向き合う葛藤や、ままならない会話のなかにもふとした喜びを感じる瞬間など、率直に語る言葉の数々に心が揺さぶられるエッセイです。

2冊目は「佐野洋子 あっちのヨーコ こっちの洋子」です。

歯に衣着せぬ物言いで友人も多かった佐野洋子。学生時代からの友人や芸術家、昔の同僚、古道具屋の店主、作家などいろいろな方々から佐野洋子にまつわる証言を集めています。また、未発表の絵画作品も多数収録されていたり、代表作のひとつでもある絵本「おじさんのかさ」では、当人たちしか知らない驚きのエピソードも紹介されています。大胆さと繊細さを併せもった佐野洋子の知られざる魅力が、さまざまな角度を通して垣間見える内容となっています。

3冊目は「おぼえているよ おおきな木」です。

佐野洋子は絵本やエッセイのほかに児童向けの物語も発表しています。その中の一冊「おぼえているよ おおきな木」は絵も自ら描いています。表紙から一貫して赤と黒の2色のみ、ページの片面に文章、もう片面に絵という、とてもシンプルな展開の繰り返しですが、この単純な繰り返しのなかに起こる人間の心の大きな変化が描かれています。

この物語の主人公はちょっと偏屈なおじさん。おじさんの家のすぐ近くにおおきな木がありました。通りすがりの人は花や実がなる木を褒めたたえますが、おじさんにとって邪魔でしかありませんでした。そしてついにある手段に出ます。その結果得たものとはいったいなんだったのでしょうか…？

この他にも図書館には佐野洋子に関する本がたくさんあります。ぜひ手に取って読んでみて下さいね。